

## 4 たし算・ひき算の 筆算 (2)

□ 月 □ 日

1 左がわの 筆算の たしかめを します。右がわの 筆算の □に あてはまる 数を 書きましょう。

1 4 5  
- 2 4 → 2 1  
2 1

2 5 7  
+ 3 6 → 3 6  
9 3

2 □に あてはまる 数を 書きましょう。

1 1 2  
+ 4 7  
5 9

2 4 6  
+ 2 4  
7 0

3 2 7  
+ 3 4  
6 1

4 2 5  
- 1 4  
1 1

5 5 1  
- 4 2  
9

6 7 5  
- 4 7  
2 8

くり上がりや くり下がりに 気を つけよう。

おうちのかたへ 今回の学習のねらい

- 筆算 (2桁±2桁まで) の理解を深める。
- たし算とひき算の関係を確認する。

3 ひかるさんと あかりさんが ゲームを して います。  
1回目に、ひかるさんは 18点、あかりさんは 33点 とりました。2回目に、ひかるさんは 29点 とりました。

1 1回目に、あかりさんは ひかるさんより 何点 多く とったでしょう。

33 - 18 = 15

2 1回目と 2回目を 合わせると、ひかるさんは 何点 とったでしょう。

18 + 29 = 47

3 1回目と 2回目を 合わせたら、ひかるさんと あかりさんは 同点になりました。あかりさんは 2回目に 何点 とったでしょう。

47 - 33 = 14

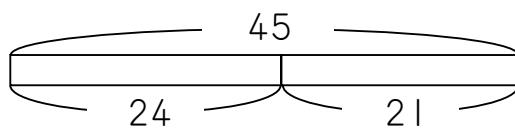
### 今回の学習のねらい

- 筆算 (2桁±2桁まで) の理解を深める。
- たし算とひき算の関係を確認する。

### アドバイスと支援のポイント

1 は、たし算とひき算の関係と、それを利用した検算の仕方を確認する課題です。左側の筆算にあって右側の筆算にはない数を探せば答えは出ますが、それが具体的にどういうことを意味しているのか、下のような図をかいて示してあげるとよいでしょう。

【図 (1)の場合】



2 は、筆算の理解を深めることが目的の課題です。たし算とひき算が裏返しの関係にあること (1で復習した内容) を学んだあとでは、例えば⑤を「9 + 42 = 51」と考えて解けるお子さまもいるかもしれません。しかし、それは上級学年の学習内容にあたります。ここでは、筆算の手順にのっとって位ごとに計算をし、必要があれば、上の位に繰り上げたり、上の位から繰り下げたりしながら解く方法で進めていきましょう。

2 で難しいのは、繰り上がりや繰り下がりを含む場合です。まず、②では、「6に“ある数”をたして0になるということはない。」という気づきから、「これは“0”ではなく“10”なんだ。」と発想します。そして、十の位が「4 + 2 = 6」よりも「大きい7」になっているのを見て、これは繰り上がりのあるたし算であることを確認します。⑤も同様で、2をひいて9になる1桁の数はないと、十の位が「5 - 4 = 1」よりも「小さい0」(欠位) になっていることから、これは繰り下がりのあるひき算であると判断します。③と⑥も、位ごとに見ていくという基本的な考え方は同じです。ただし、③と⑥の場合、一の位の計算を考えずに十の位だけを見て解くと、③は「2 + 4 = 6」、⑥は「6 - 4 = 2」と誤ってしまうので、いっそその注意が必要です。まちがえている場合には、「□にその数を入れて筆算をしたら答えが合うか、確かめてごらん。」と声をかけてください。